

## ■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井博文



### ■ 10月を振り返って

10月は、前半は健常者の国体（国民体育大会）、後半には障がい者の国体（全国障害者スポーツ大会）があり、最後の土日は本市の市民まつりでした。その間、松原分校や社会福祉事業団の運動会があり、幾つかの文化行事にも出席しました。また、月末には議長選など市議会の新しい構成を定める臨時会も開かれるなど、私にとっても、本市にとっても、大変慌ただしいひと月でした。

健常者の国体のご報告は前号の広報紙でお知らせしたとおりです。成績の方は、山口県が、追いつがる東京都を振り切って悲願の天皇杯を獲得しました。既にみなさんご存知ですね。障がい者の国体は、生来か、または出生後の何らかの事故等で障がい者になった方々にも、健常者同様、全国規模での競技スポーツを楽しんでもらおうと平成になって始まったもので、今年



は第11回大会です。本市のサッカー競技には全国6ブロックを勝ち抜いた札幌市、東京都、静岡県、大阪府、島根県、沖縄県、それに開催地枠の山口県の7チームが出場し、熱戦が繰り広げられました。

今年の大会は、国体も全国障害者スポーツ大会も、「たちあがれ！東北 がんばろう！日本」

を合い言葉に、「君の一生けんめいに会いたい」をスローガンにしたものでしたが、全県的にも、また本市の引き受け競技においても、それらにふさわしく、国民に多くの元気と感動を与える大会として成功したのではないかと考えていますが、いかがでしょうか。

大会関係者のご尽力はもとより、たくさんの県民（市民）のボランティアその他のご協力の賜物であることはいうまでもありません。ありがとうございました。



いよいよ11月です。朝夕の気温も晩秋を感じさせます。市役所の仕事は相変わらず、次々と解決を迫られる大小の課題に追われていますが、本市の発展という大局的視点を見失わないよう、かつ永年の裁判官生活で身に着いた公正公平の姿勢を忘れずこつこつと取り組んでいます。先日、ある市長が雑談のなかで「死に物狂いなんですよ」と真顔で述べていましたが、どこの市長もみな同じなんだなと強く共感したところです。

対話の日

11月24日(木) 19:00 ~  
石井手自治会館